

平成31年2月号

【発行元】

岐阜県福祉のまちづくり推進協議会
〒501-3246

関市緑ヶ丘2-5-78

TEL : 0120-337-301

FAX : 0575-24-5733

月刊 あったかいご通信

月刊「あったかいご通信」を発行する土地活用研究会は、地域密着の建設会社が福祉施設の開業をサポートする全国50社の国内最大級のネットワークです。毎月、業界の最新情報や成功事例をお届けします。業界全般の最新情報や経営のコツ、利用者募集や人材マネジメントなどリクエストも大歓迎です！

※記事引用 ・厚生労働省 ・国土交通省 ・㈱官公通信社 ・高齢者住宅新聞社 ・福祉新聞 ・日本経済新聞 他

干し芋で年3000万円かせぐ 社福法人 農業で地域貢献<茨城>



茨城県東海村の社会福祉法人愛信会は、アグリビジネスを障がい者の自立支援や地域貢献活動に生かしている。天日干しで作った干し芋や、完全委託栽培のトマトを一部上場の商社・食品会社と取り引き。朝市は、毎回600人以上が訪れるほど地域に定着している。

愛信会は1970年に作業所を開所して以来、農作業を柱に活動を展開。法人化以降は、月額工賃5万円を目標に、生産だけでなく加工と販売にも力を入れてきた。

現在は2000アールの田畑・ハウスで米、そば、大豆、野菜、シイタケなどを栽培。豆腐、餅、赤飯、漬物などに加工し農産物直売所やバザーなどで販売している。

アグリビジネスの2本柱が、秋冬の干し芋作りと、春夏の加工用トマトの栽培だ。

干し芋作りは「生のさつまいもに付加価値を付けたい」と考えた理事長が、親戚の農家から干し芋用の釜を1台譲り受けスタート。

500アールで3000万円／年を売上げる。

収穫した芋を蒸して皮をむき切断し、機械で水分を抜いた後、天日干しして完成。就労支援A型とB型の利用者20人が、個々の得意分野の作業を担っている。

2018年からは食品商社の国分グループとの取り引きも始まった。

一方、トマトはカゴメ（株）と栽培契約を結んでおり、収穫したすべてがトマトジュースに使われている。

一部上場の商社や食品会社と取り引きすることで、利用者の月額工賃はA型約8万900円、B型約3万300円になった。今後は、大型冷蔵庫を整備するなど1年を通した販売体制を築き、さらなる工賃増を目指す。

アグリビジネスは、地域貢献活動にも役立っている。特に、毎月第1・3土曜日の朝7時半から開かれる朝市には、毎回600人以上が来場する。04年に野菜販売会として始まったが、今ではそれにとどまらない。

一つは、買い物が困難な高齢者の生活を支える役割だ。朝市で販売している弁当、惣菜、餅、野菜などを事前にファクスで注文してもらい、1000円以上購入した場合、自宅まで無料配達。約15人が利用している。

リサイクル拠点の役割も担う。朝市にアルミ缶を持ってきた人には、野菜を粗品として提供。缶は利用者がつぶして、業者に引き取ってもらっている。

農福連携の先にあるアグリビジネス。仕事内容に悩んでいる事業者は、検討してみてはいかがだろうか。